劇場・音楽堂

音楽クリエイター育成プロジェクト　Tokyo＆Paris to the NEXT【東京文化会館】

目的目標

本事業は、主にデジタルテクノロジーを活用した音楽芸術を扱う日本人若手クリエイター（作曲家、サウンドデザイナー、エンジニア)の育成と創作・発表の機会を創出する。世界最高峰の施設での活動を通して、国際的に飛躍するクリエイターを育成することで、諸外国に負けない競争力を養い、世界における日本の文化芸術のプレゼンス向上を目指す。また、その活動に伴走することで職員の知見を広げ、組織の基盤強化を図る。

概要

若手クリエイターの育成プログラムとして、東京文化会館と現代音楽における最先端の取り組みを行うパリのIRCAM（イルカム、フランス国立音響音楽研究所）が共同作曲委嘱を行う。プロフェッショナルな現地クリエイターと創作を行い、パリ及び東京でそれぞれ初演し、世界での活動の場を拡げる機会へとつなげる。職員は、創作過程を通じて現代音楽への知識を深め、若手クリエイターがステップアップできる次の企画を提案する。

国内公演　【計3回】

・東京（都内コンサートホール・劇場）

2026年・27年・28年　1回ずつ開催

海外公演　【計3回】

・パリ（IRCAM内エスプロなど）

2026年・27年・28年　1回ずつ開催

3年目までの取組

1年目はIRCAMと会議を重ね関係構築、若手クリエイターを派遣する基盤固めをするとともに、若手クリエイターの選出を行う。2年目はパリでのクリエイションを開始、現地のクリエイターと創作を重ねる。この過程で宣材の準備や、創作過程を公開するなど、広報活動を展開する。3年目は現地での最後のクリエイションと世界初演を行い、その成果を持って、日本初演となる国内公演へ還元する。作曲家1名の育成期間を1クール（3年間）とし、5年間で3クールを実施する。（図参照）邦人サウンドデザイナーもしくはエンジニアも、現地での育成講座の聴講や実際のクリエイションに参加するなど、海外での音楽づくりの現場を経験し、エレクトロニクスの上演に欠かせない人材の育成も行う。

5年目までの取組

第2・3クールを引き続き実施する。定期的に邦人クリエイターの作品が発表されることで世界へのアピール力を強化し、国内外の評価を獲得する。国内外での同分野を手掛ける組織と連携して、修了生の活躍の場を拡げると共に、専門知識を高めた職員が次の企画へ着手する。

成果目標（見込）	目標値
文化施設の公演活動に対する専門誌・専門家・批評家等による評価数（高評価）	5件
プロジェクトに関わった海外アーティスト・スタッフ等の数	のべ250名
国外の劇場との連携	5か国
国内における大学等施設連携 ※現代（音響）音楽におけるハブ化	のべ30施設
観客の多様化	初来館者13%

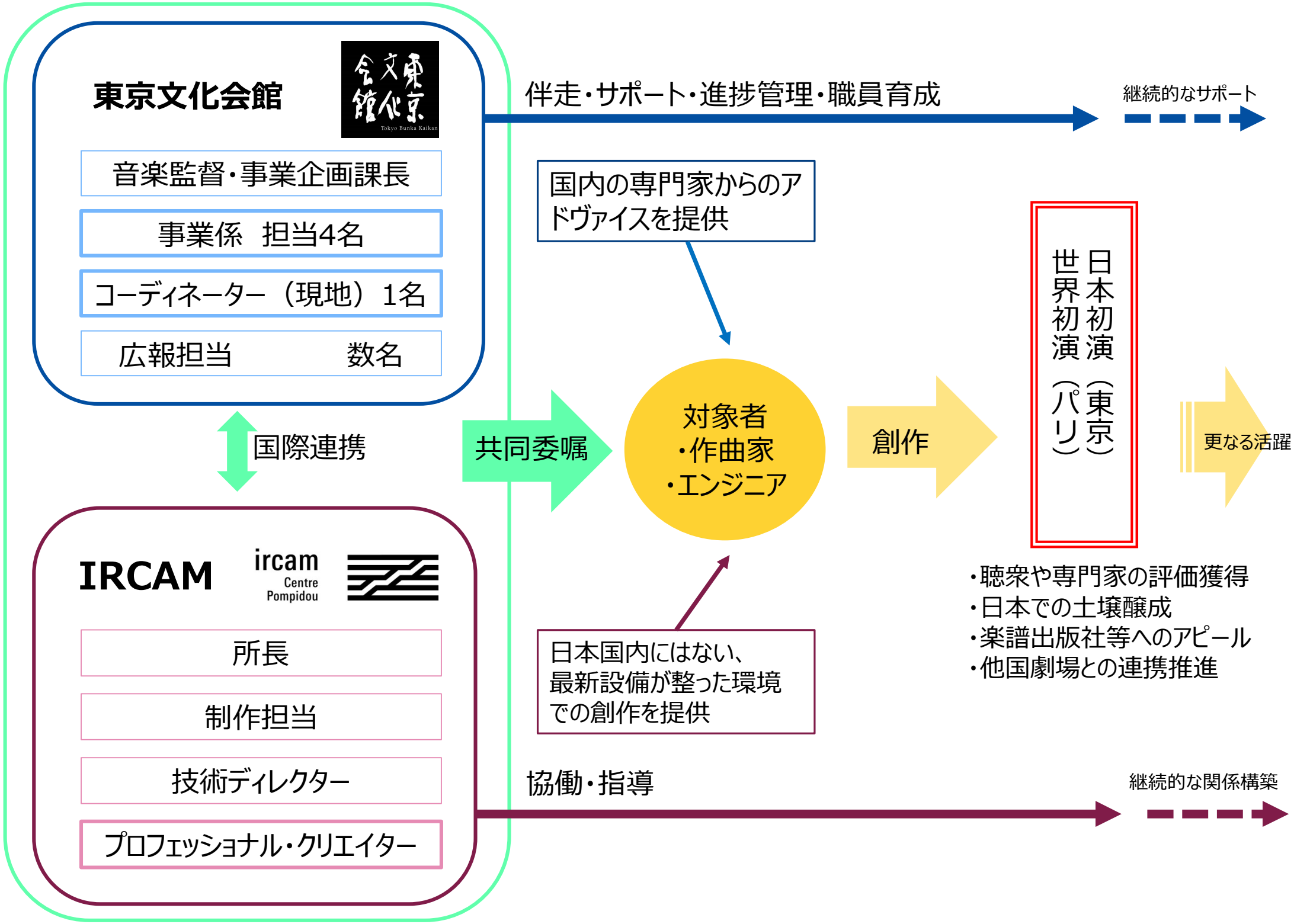
中核となるクリエイターやアドバイザー

野平一郎（作曲家、東京文化会館音楽監督）
2012年春に紫綬褒章を受章。日本を代表する作曲家のひとりで、海外でのコンクールで審査員も務める。自身もIRCAMでの研修経験がある。

フランク・マドレーネ（IRCAM所長）
フランスとベルギーでピアノ、指揮、哲学を学ぶ。ヨーロッパ・モーツァルト財団、ブリュッセルのアルス・ムジカ音楽祭、ストラスブールのムジカ音楽祭で芸術監督を務めた。

育成対象者：4人程度

◆エレクトロニクスを活用した現代音楽に意欲のある若手作曲家（40歳以下）：各年1名ずつ（計3名）
◆サウンドデザイナーまたはエンジニア：計1名
※当館及びIRCAMの推薦者から選出し、依頼・調整後、決定。


東京文化会館
音楽監督・事業企画課長
事業係　担当4名
コーディネーター（現地）1名
広報担当　数名
国際連携
IRCAM
ircam Centre Pompidou
所長
制作担当
技術ディレクター
プロフェッショナル・クリエイター
伴走・サポート・進捗管理・職員育成
継続的なサポート
国内の専門家からのアドヴァイスを提供
共同委嘱
対象者
・作曲家
・エンジニア
日本国内にはない、最新設備が整った環境での創作を提供
創作
日本初演（東京）
世界初演（パリ）
・聴衆や専門家の評価獲得
・日本での土壌醸成
・楽譜出版社等へのアピール
・他国劇場との連携推進
更なる活躍
協働・指導
継続的な関係構築